

南小だより

令和5年1月15日
佐世保市立吉井南小学校
校長 中村 雅男

子どものために 

学校でAさんがある友だちBさんの足をけった。AさんとBさんがちょっとした言い争いをし
てAさんは「カッ!」となり、つい足が出てしまったのだ。Bさんの足にはほんのりあざができて
いる。

上の出来事はフィクションではありますが、学校でも起こり得ることです。
さて、このフィクションを続けます。

担任がAさん、Bさんに事情を聴くと、AさんはBさんをけったことを認めた。言い争いの中
で「バカ!」と言ったらBさんに「死ね!」と言われたことに「カッ!」となりつい足が出てし
まったという。AさんはBさんをけったこと、「バカ!」と言ったことを素直に謝った。Bさん
も「死ね!」と言ったことを謝り、互いにこれからも仲よくすることを約束し、仲直りをした。
担任はお互いに謝れたことを大いに褒めるとともに、「カッ!」となっても、相手が嫌な気持ち
になる言葉を使ってはいけないこと、Aさんに対しては、相手を叩いたりけったりするような暴
力は絶対に許されないことを厳しく指導した。

一件落着ですが、さらに続けます。

担任はこの出来事と子どもたちに指導したことをAさんとBさんの保護者に電話で伝えた。事
実を伝え、学校で起こったことでご心配をおかけしたことを詫び、「お子様のお話も聞いてあげ
てください」と伝えた。Aさん、Bさんの保護者も「今後もよろしくお願いします」と話された。

フィクションのお話はここまでですが、ここからさきを保護者の皆様に考えていただきたくおた
よりしています。この後、保護者の皆様はどうされますか? わたしがAさんの親だったら、我が
子のあやまちを悔い、そして、Bさんの親に謝ります。我が子と一緒に「すみませんでした」と頭
を下げます。それが「子どものため」だと信じているからです。自分の親が頭を下げて謝る姿を見
せることほど、我が子に訴える大きな力はないものと考えています。

いかがでしょうか? いろんな考えがあると思います。当然です。しかし、わたしはその決定の
ものさしになるものは「子どものために」でなければいけないと考えています。

子ども一人ひとりのよりよい成長のために、大人としてできることをご一考いただけると幸いで
す。もし、ご感想などあれば走り書きでかまいませんので、下の【MEMO】を、お子様を通じて
校長室まで届けていただけるとありがたく思います。

【MEMO】 よろしかったらお名前をご記入ください。無記名でもかまいません。

お名前 _____